

本稿は、3月25日に全労連主催で行われた新宿大宣伝行動では発言した内容について、加筆・修正したものです。

ロシアはただちにウクライナから撤退を 憲法9条をいかした平和外交こそ、日本の役割

自治労連 副中央執行委員長
長坂 圭造

ご紹介いただきました自治労連の長坂です。連日、ロシアによるウクライナ侵略について、ニュースで大々的に取り上げられています。軍事基地を狙っての攻撃ではなく、病院や劇場やスーパーマーケットなど、これはこれまでの過去の戦争と比較してもひどすぎる史上最悪の戦争であると感じています。

本当にこんな戦争は許せない、早く終わってほしい、というのが誰もが願っていることではないでしょうか。ロシア軍は、ただちに攻撃をやめ、ウクライナから撤退するよう強く求めます。

今回の侵略戦争では、ロシア侵攻直後に、「チェルノブイリ原発」が占拠され、欧州でも最大級の規模である「ザポリージャ原発」もロシア軍に攻撃され占拠されました。放射能が漏れたら、その国だけでなく、世界中の国、地球というものが破壊される危険性があり、戦争の際には、原発が絶好の攻撃対象になるということで、改めて、原発のありようを考えさせられることになりました。

政府は、原発防衛のため、自衛隊を配備することを検討する、とっていますが、それこそ、攻撃の的を増やすだけではないでしょ

うか。原発があることで危険性が増すと感じています。

ロシアは、核兵器を使うと脅しに使い、生物化学兵器を使う可能性までも報道されていますが、いずれも核兵器禁止条約、生物兵器禁止条約で禁止されており、断じて許されません。

本当に、戦争というのは、人間の心を侵し、いのちもくらしも人生も破壊しつくすだけで、何も生まない、誰も幸せにしない、許されざる行為です。ロシア・プーチン大統領の蛮行を断固として許さない世論を広げること、平和的なやり方で、包囲し、追い詰めることこそ今大事だと思います。

こうした野蛮な戦争行為が行われるのを目の当たりにし、改めて、武力は紛争を必ず起こす。戦争をしないという秩序を守ること、守らせること、戦力を持たないという、日本の平和憲法の重要性を私は、実感します。

先の大戦では、日本は、国内で300万人、アジアで2000万人の犠牲を出しました。当時の公務員は、国民に召集令状を配り、監視し、人を殺し、殺される戦争に動員する役割を担っていました。

その大戦の反省に立ち、戦後、日本は二度と戦争はしないことを誓い、世界に発信しています。私たち自治労連は、自治体・公務公共の職場で働く仲間、住民のいのちとくらしを守りきりたいと取り組んでいる労働組合です。平和を何よりも大事にし、二度と赤紙は配らないことを固く誓って取り組んでいます。

平和であればこそ、スポーツを楽しんだり、おしゃべりを楽しんだり、あちこちへ旅行に行くこともできます。どの国の人々も同じです。みんな平和がいいに決まっています。お互いの国を尊重し、武力で脅かしたり、戦争をしないという日本だからこそ、信頼されているのではないのでしょうか。先日のウクライナ・ゼレンスキー大統領の演説には、「日本に世界が安定的な平和を守るリーダーシップを取ってほしい」といった期待が込められていました。戦力を持たない、戦争しない、憲法9条を持つ日本だからできることではないのでしょうか。

戦争が海外で起きたのを見て、「憲法9条の見直し論議をしよう」とか、「軍備増強で敵基地攻撃能力を」とか、ましてや「原爆を共有しよう」なんてことを言い始めた政治家もいるようです。そんなことをしたら、逆に、日本が外国を攻める気じゃないのか、攻撃できる国として脅威を与えるだけで、日本と外国との間で信頼ある関係を壊し、世界を一層不安定なものにするだけです。世界が安定的な平和を守るリーダーとして、役割を発揮するためにも、憲法9条をいかした平和外交がますます重要です。

憲法9条を持つ日本が先頭に立って、ロシアにただちに戦闘行為をやめ、ウクライナか

ら撤退するよう国際的な運動を進めるよう求めて私からの発言とします。